

データセンター要件一覧

前提	全てのインフラ設備の保守・点検・交換作業を、運用サービスを停止することなく実施可能な施設であること。
	いかなる単一の設備障害が発生しても、運用サービスに影響を与えない設計であること。
建物	日本国内に所在する建物であること。
	データセンターの周囲に、消防法による指定数以上の危険物製造設備、および危険物貯蔵設備がなく、隣接する建物は 10m 以上の距離が保たれているか、または同等の耐震性能を持ち合わせていること。
	建築基準法の規定する耐震構造建築物とし、同法に規定する耐火性能を有し、防火対策、および水害対策の措置が施されていること。
	震度 6 強クラスの地震発生時にもサービス提供可能な耐震、または免震構造であること。
	JIS 規格に準拠した避雷設備、および IEC の内部雷保護システム・機器の雷サージ保護システムに対応した雷対策を講じていること。
セキュリティ	自動火災報知設備、消火設備、非常照明設備が設置されていること。
	建物の出入り口に防犯対策が講じられていること。
	個人レベルでの認証機能、または有人警備によるセキュリティが施されていること
	データセンターは 24 時間 365 日の監視体制で入退室者を識別・記録できるセキュリティ設備（IC カード）に許可された者のみが入館できるよう、入退館が管理されていること。
ネットワーク	データセンター内のネットワーク回線については、強固なセキュリティを確保すること。
	本町の CMS 操作において、作業に支障のない快適な通信速度を確保すること。
サーバールーム	サーバールームのラックは、施錠できるラックを使用すること。
	サーバールームの出入り口には、入退室管理システムを設置し、不正侵入などに対する監視、および管理処置などの防止措置が施されていること。また、個人レベルによる入退室の管理が施されていること。
	サーバールームには設置機器に影響を与えないよう、水を使用しない不活性ガスの消火設備を設置していること。
	屋外側の窓、外壁、天井、および床からの水の侵入がないこと。
	サーバールーム内には監視カメラが設置され、サーバールーム内を監視、および記録することができること。
	室内の環境は、腐食性ガス、振動、塵埃が発生しないこと。
	防湿、防塵対策が施されていること。
電力設備	サーバールームの電源設備容量は、機器の負荷を考慮して余裕を持たせていること。
	電源供給設備は多重化されており、24 時間 365 日、電源の安定供給が可能であること。
	無停電対策として、電源が冗長化されており、UPS が設置されていること。
	商用電力の供給が停止した場合、非常用自家発電設備により停止から 1 分以内に電力が供給できること。
	自家発電設備は、無給油で 24 時間以上の連続運転が可能であること。
	サーバールームの受電容量以上の非常用自家発電設備などが設置されていること。
空調設備	サーバールームには、室内の負荷発熱に対応した空調能力のある 24 時間 365 日連続運転が可能な複数台の空調機が設置されていること。
	サーバールームには専用の空調システムにより、温度、および湿度が一定に保たれるような設備が備わっていること。
	温度、湿度は機器などの安定稼働に影響を及ぼさないよう、適切な温湿度に保たれていること。
保守	監視ソフトなどにより、サーバやネットワーク機器の稼働状況を常時監視し、1 日に複数回は目視による監視を行うこと。
	バージョンアップなどのシステム保守作業は、CMS システムの運用に支障のないように実施すること。
実績	地方公共団体または類似団体でのホームページおよび CMS の導入実績が 5 件以上あり、現在も稼働していること。